

臨床研究の情報公開（オプトアウト情報公開）

臨床研究 5

研究課題名：「当院における骨盤臓器脱（子宮脱・膀胱瘤・直腸瘤等）手術症例の手術成績に関する研究」

研究の目的：骨盤臓器脱（子宮脱、膀胱瘤、直腸瘤等）は高齢者に多い疾患であり主な治療法としてはリングベッサリー、手術療法があり、手術療法の術式は多彩であり各施設により大きく異なるのが現状のようです。近年ではメッシュを用いた手術が主流となりつつありましたが、合併症の問題等のため再検討が必要な時期となっております。術式の選択には、主に、症状の進行度、子宮病変の有無、合併症の有無、患者様のご希望、画像診断所見を基に決定しております。当院での主要術式は、膣式子宮全摘＋膣壁形成（±膣断端挙上）から腹腔鏡下仙骨腔固定術へ移行しつつありますが、さらなる最適な術式の検討が望まれるところであります。

本研究は、当院にて骨盤臓器脱診断で手術療法を行った患者様の諸々の診療情報（年齢、既往歴、検査値、画像診断、手術成績、再発所見等）を集積し、そのデータを詳細に精査、分析した結果を基に骨盤臓器脱のより安全で適切な手術の選択、遂行に寄与することを目的としています。

対象となる方：2001年10月から現在までに当院で骨盤臓器脱の診断で手術療法を行った全ての患者様を対象と致しません。

研究の期間：当院院内倫理委員会の承認後（2026年3月）から、上記対象の患者様の診療録を基に下記の臨床研究を行います。

研究の方法：上記期間内に当院で骨盤臓器脱の診断となり手術療法を行った患者様の諸々の診療情報（年齢、既往歴、検査値、画像診断、手術所見、病理診断等）を診療記録より抽出して集計致します。

個人情報の取り扱い：本研究で得られたデータ解析結果の公表（学術講演会での発表や医学雑誌への論文投稿）に際しましては、患者様を特定できないように氏名や住所等の個人情報を完全に伏せた状態で行います。

その他：本研究では、患者様への費用の負担や謝礼はありません。また、本研究にかかわる利益相反もありません。

実施責任者：福島赤十字病院 産婦人科部長 矢澤浩之